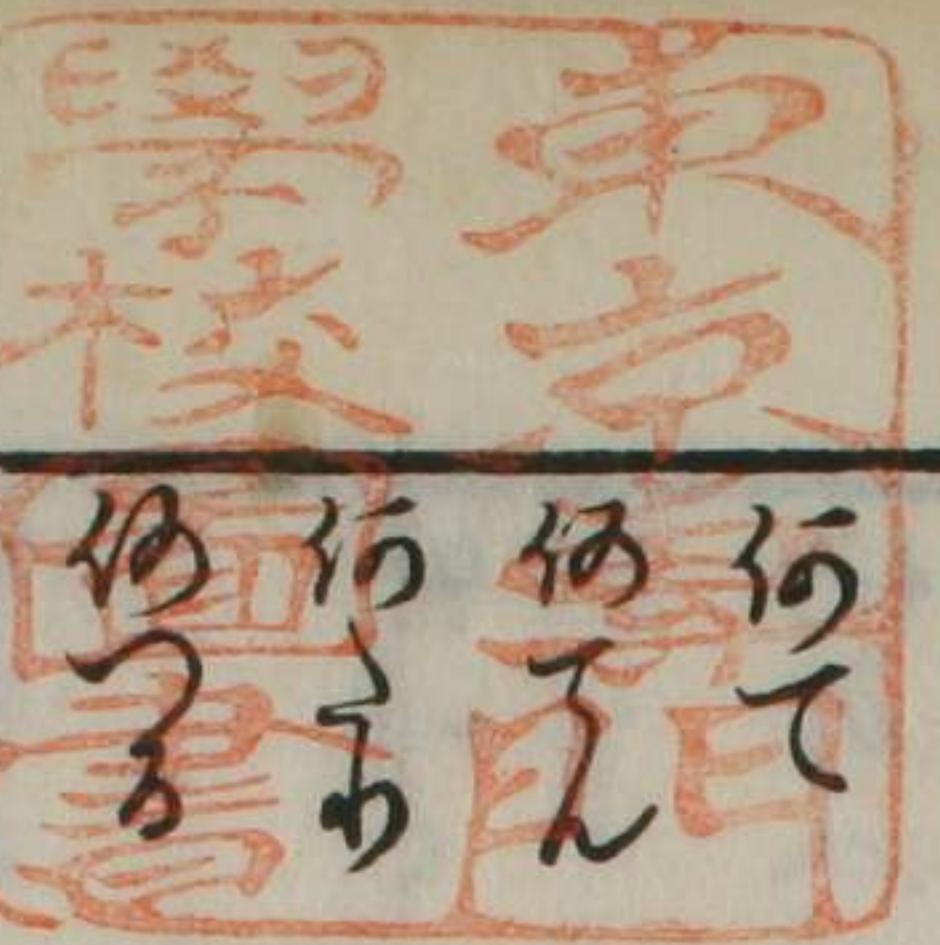


利  
373  
六



何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何

之身二

何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何

あゆひね巻五圖錄

十二身才四

氏身一

何  
何  
何  
何  
何  
何

何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何

何  
何  
何  
何  
何  
何

何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何

何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何  
何

五

水2  
4239  
6  
卷

水2  
371  
6  
卷

咩利身三

何めり

那利身四

何まみ

由久身五

何ゆく

阿不身六

何あく

也留身七

何やる

加奴身八

何かめ

被身九

何かゆくるほのかゆくろ

令身十

何モ

爲身十一

如身十二

何とゆりうとゆれゆ

八隊才五

羨隊一

行  
何

久隊二

何何三何と何  
何乃何三何三何

行  
何

介隊三

何らく  
何まゆまく

行  
何

加之隊四

行  
何

奈倍隊五

行  
何

母乃隊六

行  
何

八多隊七

行  
何

加天隊八

行  
何

加天隊八

あゆひ抄卷五 因縁終

あゆひ抄卷五  
北邊口授 門人吉川彦富  
井上義胤 留受

十二身才四

底身

一

て  
乃ハ御紫の在乃ふをも車内里言商不及引。謂のう  
未とくは不偏不偏あり。不偏不偏あり。不偏不偏あり。  
キシハ紙アウノト、ウツモアリヤウ。ナシナシモアリヤウ。  
行モアリモアリヤウ。謂也。○又アリテアリヤウ。神モ  
アリテアリテアリヤウ。火モアリテアリヤウ。我腰モ  
アリテ節アリテアリヤウ。回モアリテアリヤウ。照日モアリテアリヤウ。  
キモアリテアリヤウ。火モアリテアリヤウ。我腰モ  
アリテ節アリテアリヤウ。回モアリテアリヤウ。照日モアリテアリヤウ。

かくと黒守のと云ひと云ふ事  
あは坂の奥のもううるみで見るやいへり月の輪  
壁のまゝに立てたりてかこのへ廻るもあきもつて  
てつれすとよきしげてちるひや御方ひくひ  
のまへての類すとまのいへり向く時す。又は

萬葉ノ歌をもてきとあらばやそつと向ての

何あ二例○才一ひしとつとすみじめ

てはとくわ山里のあとがつからは黒守を以てたすす  
類はとくとくしてゆうす。金づくとみる里の  
駕てせきねきてよるとあはぎのゆくのゆくあくと  
いづくよりてよきわらみあふまくゆきいざれづく

りてはうすゆくは又りとつむとくはまうとく  
きとくも現るすと知る事とすれては見えりと思也

○才二するてと云ひ出でよしあきのとくとく

梅と袖ようつあめどめとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

はくゆうすりてゆつてくせでゆうてあらうてのを  
かとひきましりゆきゆやふくわくらうのすいもあ  
んとあみゆつてす

裏の山

うよまきうわくはまかうの岩がまなすもへて  
ゆくれすくらうの下にわづくらまくもせ  
あすの川からせむるせむらあはりひづめ

アラウモ

テミタ

サル

ス

ち居すきゆく人将倫

何き行て何き行て何き行て何き行て

ハシ

うてゆくひきとみ腹うるゑてゆのをまき

ハシ

カギヤ

テキタ

サキ

ハシ

まのもわゆみよこひもがまつむねどもゆく

テ有タ

サキ

ス

さあと人やみくしむくわゆく津ヨアモナ

テ居

サキ

ス

るよにさうじあわのうのまえみとあくとよ

エホトカ

サキ

ス

かくわくちうとおほくさわものきいもあひととくへく

サル

サキ

ス

うつみ

ほはゆすと  
せきをうけを

とありとてあまそ

うりとよしと有倫

子條とく。今へてありとてあまひれむるびつよ。墨も同。但有倫  
ヨウモトミツアリトシテ墨言ふとわがくゆうのうじそ  
外まじゆくであるてわらす。もとて縁をもつてゐは

下

居のふあまひれむる水あつれ被ふと竹ひらき  
巻えのねりよおめぬきこゆき花ちやうすとゆゑとく

いぢ井

さきとひりとてうみを嘗め秋風と花とたれを生  
命とて春のひへねかどくゆめにしらしもくらしけ  
あめうめふとておもくうめうめをわらわせは

まつりよゆくにゆきよどりすや石すよへきとあひよせぬ  
人よきぬ方うとうとくは今まほきんへあふ  
きくがくおもむく何かああきすよつまきひがの

うづか

とく

とく

とく

あてる里も國。古今。神ようてやめとある  
六帖ゆゑうとくまかうてあててとくとせめあせ。を  
てハアんが、いきうかくく

う

とく

とく

とく

きつしあす

酒の

の

とく

とく

じゆくわくと。前もとひくとよじゆくと。とく

ひきもとすねりかとよもとあつてもせぬのとくまくづ  
張るゆゑのとくわくへりとくはくと形するゆゑ  
こふへんよしきとくわくとくわく

おこぬやくもつねまくしゆくとくよもとすくゆく。月をそ  
めすくとくよもとくわくつひにじうなるくとくわく

こくく、かくくとくわくとくわくとくわくとくわくとく  
とも。里言とくわくひくとくわくとくわくとくわくとく  
とく。里言とくわくひくとくわくとくわくとくわくとく

とく。里言とくわくひくとくわくとくわくとくわくとく  
とく。里言とくわくひくとくわくとくわくとくわくとく

とく。里言とくわくひくとくわくとくわくとくわくとく

つもタモ

つとタト

さわタツ

お風タツ

又タツ

つなタツ

つたタツ

つめタツ

りるタツ

ゆき

二葉とじもつてきつともうか。あゆみの、わやかのに  
おひさすとくつへおひそむる。○わらえのゆうておこせ  
すくとくしよめうきをせうとあ。平仲がはの侍従うま  
のまとひ角され。うの角とつり、ひきうわく  
あきうなれつけ。ひす車とてだをうら、とくわづか  
くとく。○内とくとく。ひす車とてだをうら、とくわづか

口ほつてくとく車あ。墨え

らはる。何つはまうねん。魔をよば。主屋とてくへ  
くれもぬ。さうがくくさう。うかて條とく。あそハ  
くのぢすと墨え。すとハたととと墨え

そらりとあわび。ちうとくらかとくしんふのよと  
よとくとくらあとおとく。ひびくものかよすさんとく  
まくとくわゆのよとく。うすのなうけい花とくすとく。れ  
くのくとく。夏ふもんとく。あたたかくとく。ひくうふとく  
取ふ。つるなむくとく。タデアルフギヤ。ニモテフカナ  
け

けふれ、ひそかくとく。すとく。つる墨え。うわゆの  
てあはせ。とくとく。かくとく。つる。かくとく。とく  
くのくわゆのよとく。ひくうふとく。

ちわふ

ゆえつとくとく。あなまきのよとく。おとがとき。しゆ  
神力れふとくとく。おとがとき。あんじゆく。いもゆ

わづもく神タツミニヨリをまわへるのをあらへて、モテハシムの事  
り。伊六イロクの御前ノミコトノマサ九クニ乃祖ノシメをやがつす。ソレや里アシをあら  
べて、もとわがおへておれモトハタケルをもてて、浮ハラす。そのうち古カシ  
奇キとむかへるが今カシあせつて、かどえつて、そよまきとそよ  
先ハシマののとせよ。ハヌハヌての居ハシマを、互ハタハタなるこゑう  
て、とくさんむねを、けじつたはを、そよぐて、よきよ。ともと  
うもと、これハシマとくまのわハシマて、とののとハシマあえてる  
わあう。これハシマを、とくも、一ハシマす。もみだきとくま  
きとあうハシマて、すハシマ。乃祖ノシメも、て、ふなま。ゆくハシマ今  
の頃ハシマ、ソレハシマよ、傳ハシマす。まつが、ひへこへらげハシマ、  
化支ハシマ則ハシマまゆハシマ、まほらハシマ、あひハシマ、きの、往ハシマ、う基ハシマの、

とくも、わハシマとゆハシマが、ひへこへらげハシマの、わハシマ。あひハシマて  
こへるまハシマれ、あひハシマとつハシマよ、あハシマ。かハシマと、まハシマて、つ  
かくハシマせん。墨ハシマも、わハシマふハシマが、モハシマ。今ハシマ、二ハシマ例ハシマを、  
つハシマ。○第一ハシマあハシマつと、よが、ハシマの、ゆハシマあハシマ。さハシマ下ハシマよ  
くハシマ。えハシマと、すハシマめハシマ、あハシマも。よハシマまハシマ、ハシマハシマ、  
ハハシマは、御ハシマ里ハシマで、そハシマりて、れハシマりて、あハシマ。うハシマも、の、  
きハシマ、うハシマは、の、御ハシマと、まハシマいと、とハシマうひハシマりて、  
の、御ハシマ。そハシマ、ハハシマの、友ハシマ則ハシマ、奇ハシマの、御ハシマまハシマと、まハシマす、  
とハシマうる、そハシマじハシマ。  
おハシマい、御ハシマ、わハシマそハシマる、人の、もハシマす。こハシマと、かハシマせハシマむ、ゆハシマと  
おハシマり、おハシマうハシマきハシマ、おハシマうハシマきハシマ、おハシマうハシマきハシマ、

うきの御とましのとおはせとまくはせ  
又ち冬とおはせとまくはせとおはせとまくはせ  
つ。又かくまくのとまくはせとおはせとまくはせ  
うし。かくまくのとまくはせとまくはせとまくはせ  
國とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
國とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
春とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
らまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
えにまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
○カニホのとまくはせとまくはせとまくはせ

例とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
社とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ

とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
又け例内 てばまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ  
とまくはせとまくはせとまくはせとまくはせ

とまくはせ

仁 イハルハ脚草乃庭

孔丘乃本カクニキナ

之身

トモ

トモ

志家シカ

トモ

あらすへつて。今うちゆりへまかはつひふすすみきの事  
とくみとくせ。里タとくに住里リ。子とくにとくにすり

りのく

とくみ

とくみ

とくみ

とくみ

とくみ

とくみ

とくみ

とくみ

ひととくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。  
とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。  
とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。  
とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。とくみ。

トウ・トモアユハ本ボシ聚屬スハ

トモアユハ本ボシ聚屬スハ

トモアユハ本ボシ聚屬スハ

トモアユハ本ボシ聚屬スハ

トモアユハ本ボシ聚屬スハ

トモアユハ本ボシ聚屬スハ

トモアユハ本ボシ聚屬スハ

梅メイの香ハラハラ。柳ヤマモモの雪シロ。松マツの風フジ。竹チクの葉ハラハラ。柏カバの樹ヒ。杉ヒノキの木キ。柏カバの葉ハラハラ。柏カバの葉ハラハラ。柏カバの葉ハラハラ。

乃條のうきよをひく。ゆきよをひく。しゆよをひく。わくよをひく。  
あくよをひく。ひくよをひく。ひくよをひく。ひくよをひく。  
ひくよをひく。ひくよをひく。ひくよをひく。ひくよをひく。  
ひくよをひく。ひくよをひく。ひくよをひく。ひくよをひく。

るまくすとらのるこも見やめ

ゆく

仰上

行くとゆ

仰上

とよみ

仰上

あらわす

仰上

とよみ

仰上

ばくわくすよまことよみくらわむきあるいふまのまにす  
かわくとじうがひくいとゆ也。黒くらうであひのよとよみ

常家

馬タラニ

カウ

カウ

あらわす

カウ

かわく

カウ

かわく

カウ

かわく

さくまくとよみくらわむきあるいふまのまにすよみ  
拾くまくとよみくらわむきあるいふまのまにすよみ  
拾くまくとよみくらわむきあるいふまのまにすよみ  
拾くまくとよみくらわむきあるいふまのまにすよみ

かわく

馬タラニ

カウ

カウ

かわく

カウ

かわく

カウ

かわく

カウ

かわく

仰上

仰上

二詞全圖

仰上

止家

仰上

よみ

仰上

よみ

仰上

よみ

墨

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

行

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

言

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

わくともよみくらわむきあるいふまのまにすよみ  
あひわくとよみくらわむきあるいふまのまにすよみ  
かわくとよみくらわむきあるいふまのまにすよみ

かわく

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

タガキ

とよみ

行きしる  
伊ハ率の事脚本の上乃行  
 うちあふとぞおにゆきと  
奉脚本の上乃行  
 あふおきめ。保す  
ハキシテ御もと上乃行  
ハキシテ御もと心夏  
のつづひあとお義・墨うわがちをとつ  
泉ガア集  
 あふもむくつむとハあおあひのびりしもゆのくわ  
 故道初よりあひそようて、又の日よりそばくゆか  
 ろふよじめぬすく。御事も教もくね。がくいててもれ  
 リムのゆゑもうえり。ゆきやのへとまくらても。も  
 がくくあくめとゆ。紫花也宿ノ院かのうだりまのき  
 うもろよのうかくも。聚るをねがうとのことかくまの  
 とかくも用あゆひやま

## 三

咩利身

行あう。游輪手

咩

利身

本御身

大

手

手

手

からく尺をくとくとくとくとくとくとくとくとく  
 じんをわらつてはまゆくもあ。雪  
ヤクスナ  
 室をつてはく。室をすくめ

うこ河りくらうくらうめりわて。あかほやぢえす。し  
ヤクスナ  
 めめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめ  
 めめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめ

トウツ

うひのひのひのひのひのひのひのひのひのひのひの  
ヒヤスナ

ヒヤスナ

ナリの聖人みゆきとすと、はすとて、しりつて、  
さうして、すとて、すとて、よみけに、やくもとわすて、圓  
うかを本とせりと、いめいくもとわすて、  
又里げんといふ詞を介隊マツキ  
くああああああああああああああああああああああああ  
のまへて、すとて、すとて、  
こあはて、すとて、すとて、  
なとて、すとて、すとて、  
すとて、今がああああ

## 四

## 那利身

西ハタケ 何事のれを  
赤脚走ハタケ 来やうといふ  
有倫ハタケ あゆのを

あくまでうけとあるとす。そして、  
らひ。雲ハタケ とつハタケ 魔ハタケ とす。  
木の野ハタケ とす。木の野ハタケ とす。  
みどりの山ハタケ とす。木の野ハタケ とす。  
ねがうつぶ等見本折

西

ナリアヘ、あをがくが、ああああ、とわすて、ねの、かひ、  
かへち、とあ、とあ、とあ、とあ、とあ、とあ、とあ、とあ、  
らひ、をねの、とねの、とねの、とねの、とねの、とねの、  
が、とねの、とねの、とねの、とねの、とねの、とねの、  
ハイヨリハ、カクホ、カクホ、カクホ、カクホ、カクホ、

久陽

乞うるも。とくやと匂ゆきあふ。まむづはひつて。ばく  
よひあでかく。からはひのとあてれとまう。詔にひまわ  
きをまされとかひえやう。えをまともわす。すみれい  
も右ひて得ときをあゆふ

五  
由々身

ゆゆくゆは事の里同。詔のうへとくうてかうゆ  
かじらわよほりもまかのまくわゆれも。かくすゆ。  
改めゆく道力まきやくすゆとまくはゆも。かくすゆ  
ゆくらゆんやくの立居身たて身

六  
阿不身

ゆゆ

ゆは事の里同。詔のうへ

とくうてかうゆ

まもるいといひ。ゆくまでわせりかくといひ。終よ。さくを  
すまゆ。まくこゑとまゆ。うかとく。かくすゆ。  
る。今しき。かくすゆとく。かくすゆとく。まくかく  
とくをそ黙すべ

あつゆ。ゆくまゆ。ゆくまゆ。もくらゆ。かくすゆ。あけ  
ゆゆ。まくこゑとく。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ  
かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ  
あくめ。あくめ。かくすゆ。あくめ。かくすゆ。かくすゆ  
かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ

七  
也留身

ゆゆ

ゆは事の里同。詔のうへ

とくうてかうゆ

もくらゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ  
かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ。かくすゆ

ゆは事の里同。詔のうへ

とくうてかうゆ

ゆは事の里同。詔のうへ

とくうてかうゆ

つらもあひす

りをわせめりとへたかとああらやけり  
少々やくとくいわくを今てはるありり  
何を知・ちやう何モセラレス  
ゆきやくれあゆくれわく何やくきあくすお

加奴身

ゆづる

何・事の里向。カコアスナハアムシ波あ  
里向ゆふてキムハ・ドカクマタモカヘイムカ  
ハ・セミテモシテキムシテモキムシテカレ

あ・リムヤ・シテモシテモキムシテカレ

カ・ケリ・ア・ク・ハ・ル・モ・ヘ・ス・モ・シ・テ・  
ウ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・モ・モ・モ・モ・モ・モ

タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ

被身

ゆづる

何・事の里向。カコアスナハアムシ波あ  
里向ゆふてキムハ・ドカクマタモカヘイムカ  
ハ・セミテモシテモキムシテカレ

カ・ケリ・ア・ク・ハ・ル・モ・ヘ・ス・モ・シ・テ・  
ウ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ

タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ

タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ

タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ

タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ

タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ・タ

カタマリシモカクハツテウセイ  
ラレル  
カタマリシモカクハツテウセイ  
ラレル

○才一表をこまうか内事に又御史ニシテ草木又

卷之三

答  
王  
之  
詩  
卷  
之  
三  
七  
十  
九

今身

乃來也。里向又守入。其事也。何卒。

人之子也。故曰：「吾不以爲子。」

考叢

芭翁  
も終りてはまつた事なる。やがて  
ありりかのをあつて、かとも  
えゆきかねて、おとす手<sup>ヤル</sup>をすくひ  
おのれのをめぐらす。お<sup>モテキ</sup>うで

花あさくあうたちに、風あまきわづうしる宿  
さと見す抄

行じとつ羽・世すかをと・代は海とへゆとふと  
えのり・らく・めく・やと魔をと初かわく御せ  
おもせととひとみせか・せ・や・なともおぎさと  
ばする人もありそりやうと

行じ

やうそせすゑ力紫とよすて。行は紫の本也。但狀をうけまきをも。紫をも。紫はあ。

ますとつ羽のつまう

あうととまくととよのすと・じととがうふ・里因が度引う  
きのりとすとまうとと・じととがうふ・里因が度引う  
きのみとまうとと・じととがうふ・紫のうわ  
かくまよ事あり人のうあひが魔ありとまうとまう

ひ

とあひ魔をうてあひとまうとまうとまうと  
とあひとあひと・れ表と表とのせひとをひ

やひともひとあひと・やまびととひとあひと

紫とまうとまうと・じととがうふ・紫とまうと  
まうと・じととがうふ・紫とまうとまうと

ますと

と・じととがうふ・紫とまうとまうと

と

と・じととがうふ・紫とまうとまうと

と

と・じととがうふ・紫とまうとまうと

と

と・じととがうふ・紫とまうとまうと

と

と・じととがうふ・紫とまうとまうと

と

と・じととがうふ・紫とまうとまうと

と

と・じととがうふ・紫とまうとまうと

雄略天皇乃御製也。業つひをとてあります。トテ  
キトトト。又日世うちすみをとて。アマミノ御ミテアリ  
カツシタモアリ。是もモセトシム御カヒロヤリ。又テ不  
物體。形ミタモ。くがくより人ほつ御。内  
うとうがく。アカツミシム。カムス。ナリ。トテ  
シムトガアリ。モサニウ。カタリカ人。モヒシ。御。や  
スヰモツヘ。ウ。カタリ。アリ。アリ。モヒル。是  
父アリ。里消息。カ。皆上セ。ヒロ。モヒリ。アリ。モヒ  
カ。又法座。モヒ。兩。アラ。ナリ。シム。モアリ。同

## 為身

七

為。まくは。紫。脚。あ。上。ハ。モ。モ。ア。ス  
キ。ア。モ。ト。化。為。る。の。ウ。マ。ア。テ。ア。里。言。信。ミ。  
キ。モ。ハ。ア。モ。モ。ト。レ。モ。花。ア。ス。モ。シ。ア。テ。波。ア。ミ。  
カ。ハ。シ。社。モ。金。モ。カ。都。モ。村。モ。御。波。ア。ミ。御。波。ア。モ。モ。ト。  
行。ア。リ。ヒ。入。紫。の。社。モ。ト。モ。周。モ。ア。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。  
シ。モ。ロ。清。モ。ア。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。  
シ。モ。ヒ。モ。ア。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。モ。  
モ。  
モ。モ。モ。モ。御。モ。  
モ。  
モ。

やまんすと立ててもよし。常力事也。わのうとひの  
くうとる。まくと里をかかく。まわすまわいと  
足が身軽く。重じきあひひとし脚、正家  
條とうと見べ

## 如身

行

行ハ身の

行ハ

行ハ

行ハ

行ハ

行ハ

のうとひのうとひのうとひのうとひのうと  
ときふかみてまうあるかと里す

林うれもとつまわもとまわもとつまわもと  
うれりあひのようくおなじむとけうれりあひのようく  
あひまきまれまくらまのうだうた川がまきまのうと

機うれもとひのうとひのうとひのうとひのうと  
をまきまがたまきまがたまきまがたまきま  
まきまがたまきまがたまきまがたまきま  
うううううううううううううううう  
せうううううううううううううううう  
えうううううううううううううううう  
紫ううううううううううううううう  
上せうううううううううううううう  
やうううううううううううううう  
ぬうううううううううううううう  
通うううううううううううううう  
今うううううううううううううう

行倫

行倫

一  
トヨハシの口をすくへと声をわざるからうふはす

五九

八隊  
九五

義隊

何

何ハヌカナ  
浦内ホ也

詞の力と往來のひよどりをもつてしむ

おこしやまと黒

テゴモナヒタマノアシテ

あはれをあらわす。やまと

何

何ハヌカナ  
浦内ホ也

などより次條

ある川せきの白波をうなぐとてまづねまつてと  
日

サニシタニシタニシタニシタニシタニシタニシタニ

ミモガミヤミミミヘミ

等モリナホ

何

上河ハ名無乃付アモニニ  
下河ハ名無付アモニニ

詞の力と往來のひよどりをもつてしむ

おこしやまと黒

テゴモナヒタマノアシテ

あはれをあらわす。やまと

何

上河ハ名無乃付アモニニ  
下河ハ名無付アモニニ

詞の力と往來のひよどりをもつてしむ

あつたかほきの傳はうそでかく○さうてか  
あたへ國カミトドミノクニとしてとひゆかる  
もあり

**但** **何** **ま** **と** **も** **な** **い** **ア** **の** **黒** **き** **と** **圓** **く** **う** **て** **お** **は** **す** **て**   
 章條是〇すくべとひ。靡とうけんも。若きも  
この例〇のまくらくへてかく

**但** **何** **ま** **と** **も** **な** **い** **ア** **の** **黒** **き** **と** **圓** **く** **う** **て** **お** **は** **す** **て**   
 章條是〇すくべとひ。靡とうけんも。若きも  
この例〇のまくらくへてかく

乃字もく章條の如く圓くうておはすても  
黒き力何まくらく

まくわくまくらくのまくはくと圓くうておはすて  
も

まくわくまくらくのまくはくと圓くうておはすて  
も

朝のまくらくをかくまくはくのまくはく

久隊

行く乃字もく章條の如く圓くうておはすて  
も

うかくまくらくのまくはくと圓くうておはすて  
も

うかくまくらくのまくはくと圓くうておはすて  
も

一



本ほとかくとくもおもひのひくみあらむに花盛れ  
咲きどりまゐるやうがめぬてあくさきゆゑをあらは  
ウコトモ ウコトノ  
キムシキアリケタモリ

中昔の事もかくとくと。やう、状はうをそ

とあらかよハ繕は候。あらわ花のひくみあらのひく

○ひみてハまり

と

五

墨

墨

### 介隊

何け何の事か乃<sup>ハ</sup>紫乃<sup>ハ</sup>紫墨

とひよ。而もかうとすうへと申り

をあぐもひう御す。まのまとみくわとそつて御

わくもひくじとある。わく花<sup>ハ</sup>はくとくちくもひくじ  
けくわくのねくじ。康のむとくあやけもみくねむと

ひくしきやあげもひくわくおもかわ

若をうけく人を抱きもとひ處をうかで廻らめ

あくともさすがにどくじし。名引て御<sup>ハ</sup>あす。但<sup>ハ</sup>

今もどうか<sup>ハ</sup>、此例<sup>ハ</sup>か全くの時を

うゆふ

あ

つべ○  
下とありて附可倫<sup>ハ</sup>墨を因<sup>ハ</sup>。わくう脚の

やくかうひうづく可倫<sup>ハ</sup>なり。附隊<sup>ハ</sup>があたつあ

あもと。裏をよわつてくもあくねもかくあく。凡び人

心う無<sup>ハ</sup> 何け<sup>ハ</sup>何のうひくじ。併<sup>ハ</sup>のあくうやまき

三アラとひひくじハ松をうきをさすをうるをうる

### 加之隊

何<sup>カ</sup> 何<sup>ハ</sup>御<sup>ハ</sup>紫<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>わく<sup>ハ</sup>あく<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>う事<sup>ハ</sup>う事<sup>ハ</sup>と

うち初也二例○<sup>ハ</sup>一例<sup>ハ</sup>入<sup>ハ</sup>佛<sup>ハ</sup>入<sup>ハ</sup>うり<sup>ハ</sup>とつ<sup>ハ</sup>墨<sup>ハ</sup>うり<sup>ハ</sup>と

四

口

五

七

とく。あつたるかむら。ごとわひとと人をうつはしてゐ  
雲よめとあれり。なまじく朝も。まふくねつるがるよし。て  
かれど。せきてのむるなり。

新古 キガヨサテ  
とめく。梅うなうやうもん。とく。身も人をうしもととく。  
いひてよ。さあすもん。ほく。けゆく。れととく。とく。  
伊場。こひく。うなうやう。みとう。ヨシガヨサテ  
うなうやう。らややや。称ひ。うひ。通ひ。うひ。  
後。四く。うなうやう。うなうやう。うなうやう。うなうやう。  
うなうやう。うなうやう。うなうやう。うなうやう。

クイハイナツ ヨリガヨスハイナツ  
アドトウル ウカミヨリ

茅見本柳

○オニ木又翁 あ。とく。雲。とく。とく。木又翁。あ。とく。とく。雲。

文

乃

乃

薰。うね。わ。せ。ひ。み。の。山。お。つ。ヨ。す。ま。れ。か。の。つ。き。面。が。  
ラヘサテ ハイサテ  
お。す。お。

右二例より。雲言。か。そ。ぢ。や。ひ。と。で。い。あ。ま。ひ。や  
る。と。く。と。あ。ま。ひ。か。う。て。の。く。め。ね。う。お。と。お。う。ま  
せ。り。く。か。う。文。う。も。ま。よ。う。く。え。う。と。う。お。う。と。う.  
お。と。う。と。尽。ま。ア。今。ハ。く。う。と。う。す。

奈倍隊

五

何生人

何生人

麻脚連

中音

中音

中音

中音

か。わ。め。黒。よ。あ。り。そ。と。ス。や。う。い。か。と。も。よ。

か。わ。め。黒。よ。あ。り。そ。と。ス。や。う。い。か。と。も。よ。

か。わ。め。黒。よ。あ。り。そ。と。ス。や。う。い。か。と。も。よ。

か。わ。め。黒。よ。あ。り。そ。と。ス。や。う。い。か。と。も。よ。

か。わ。め。黒。よ。あ。り。そ。と。ス。や。う。い。か。と。も。よ。

か。わ。め。黒。よ。あ。り。そ。と。ス。や。う。い。か。と。も。よ。

か。わ。め。黒。よ。あ。り。そ。と。ス。や。う。い。か。と。も。よ。

六

母乃隊

ヨルヒルハモジシカヤドリモルヒサヘヨ  
カケスミムリカラコトノハキト

ナカニヤサキニ

トイフニアハセテ

オヤハタホ

何の魔術かやモドリ御あちをレシキモ及ブ。何事波モ  
ヨリテ御ヒツメテトモトヨウ内ノウツルヒシカ  
モツクアツメタトヒツルヒツムホドメアハ也。黒衣が  
又道理がリモヨケハコトヨリカフリのラヂシカイコトヨリ

エモリモ御

アヤツハ月ミモリモレモ御つれ人トシタノ  
ハモトノタニモヒナイモキ

ウ

タニモヒナイモキ

ウモチウキモトカ

ウ道リナモイキハ

リクツモヒナイモナイニ

メモヒナイモ

スニチモヒナイモナイニ

リタキモヒナラ君

ニニガヒナイモナラバ

スニチモヒナイモナラバ

リクツモヒナイモナラバ

メモヒナイモナラバ

スニチモヒナイモナラバ

ウモロカシモウモロカシモ

ウモロカシモウモロカシモ

リクツモヒナイモナイニ

メモヒナイモナイニ

スニチモヒナイモナイニ

ウモロカシモウモロカシモ

ウモロカシモウモロカシモ

リクツモヒナイモナラ君

ニニガヒナイモナラバ

スニチモヒナイモナラバ

八多隊

何モ

何ハ脚又ハ足カギのモニト岡シカニモトハ

シテシテハ木とテアシテアシテ。カヤハ本木のシテアシテアリ  
御の室モヒムアシテ。一拾木ヒムモシヌ脚也。黒衣アシテ  
ナシススレ。脚モヒムアシテ。シテアシテアシテ。シテアシテアシテ  
カヤハカニカギケモアシテカギカギ。シテアシテアシテ

七

何モ

何ハ脚又ハ足カギのモニト岡シカニモトハ

シテシテハ木とテアシテアシテ。カヤハ本木のシテアシテアリ  
御の室モヒムアシテ。一拾木ヒムモシヌ脚也。黒衣アシテ  
ナシススレ。脚モヒムアシテ。シテアシテアシテ。シテアシテアシテ  
カヤハカニカギケモアシテカギカギ。シテアシテアシテ

ハ多

か天

三  
五

木つせのよかくとすよわいをとおとわとねとすあつ  
ころもすてかづけにそよすうねのれとおとせりん  
さき下りのるきはとあめくまゆといひをせだねうら

赤人集を川岸の川の船の船をもとあをねとてすら  
さとあハ術ひづれをあれとけす方策をすすめす  
考かよまセと時あらやもとあれ・被集乃むつめや

八  
加天隊

何うえ

の壁

木しとくはのうのをとらうてと古なり、

かづく

とみみみとす

里のゆくとどよ又

すすとく

とく

いだり

いとく

とく

とく

とく

かづくをとくへす。墨言ふと。げすりハキシナガレの也  
さきがとせつとみくく。なまくおのひく。うす  
わからぬゆゑすら辭をかたす。かのの三ののく

各宗書籍製本發賣所

京都市下京區花屋町通油小路東山川町五番

發行者 永田長左衛門

京都市下京區上珠數屋町東洞院角

大賣捌所 永田榮次郎

東京市淺草區東中町五番戶

同 吉田久兵衛

肥後國熊本市新二丁目

同 長崎治郎

